



奥の細道むすびの地「大垣」 芭蕉蛤塚忌 俳句募集

芭蕉翁を偲ぶ式典「芭蕉蛤塚忌」への献句として
俳句を募集します。

募集期間 令和三年五月十日（月）～七月九日（金）
※当日消印有効

兼題 「蛤塚忌」（秋の季語）

※二句のうち一句は雑詠可（晩秋～初冬の句）

募集資格 高校生以上

投句料 無料（一人二句まで）

投句先 〒五〇三ー八六〇ー
岐阜県大垣市丸の内二ー二九
大垣市教育委員会文化振興課内
「大垣」全国俳句大会実行委員会
※郵送または持参

選者 奥の細道むすびの地俳句協会
田中青志 大堀武直 名和永山
長野美代子 大西誠一 度会さち子

表彰 令和三年十月十七日（日）午前十時～
上位入賞者のみ通知し表彰します。
選者特選賞、蛤塚忌賞、芭蕉賞、木因賞

入賞句 令和三年十一月頃、入賞者に賞状を送付
いたします。

※別途ホームページに掲載あり

◇芭蕉蛤塚忌の由来

元禄二年（一六八九）八月、松尾芭蕉は『奥の細道』の旅を大垣で終え、大垣の俳人との交流を楽しみました。大垣を離れる際、谷木因ら親しい友人たちと離れることを惜しんで詠んだ一句『蛤のふたみに別行秋ぞ』は、『奥の細道』を締めくくる芭蕉翁真髓の作品です。

その一句が刻まれたのが、大垣の船町川湊・奥の細道むすびの地にある「蛤塚」と呼ばれる句碑です。

◇季語としての「蛤塚忌」

「芭蕉蛤塚忌」は、芭蕉翁の遺徳を偲び、芭蕉翁の忌日（十月十二日）頃に「蛤塚」の前で献花や献詠句の披露、句流しなどを執り行う大垣市独自の式典です。

こうして「蛤塚忌」という季語が生まれ、秋の季語として使われるようになりました。

「〇〇忌」は季語ですが、他の季語と併せることもできます。